

2025. 8. 26 「100 かいだてのいえ」を描こう！

7月上旬から、T男は白い紙に部屋を描いてつなげて遊んでいます。

T男は『100 かいだてのいえ』シリーズ（いわいとしお作/偕成社）」が大好きです。彼のロッカーには、絵本のちらしも貼ってあります。

「ここがお風呂！シャワーはこっちからでるよ！」と説明をしながら、描いていくT男。

「ここで、お風呂の水をきれいにするんだ！」と何やら装置を描き始めます。彼なりのアイデアが自由に表現されていきます。その様子をみていたK子も隣で部屋を書き始める。「私はウミガメのおうちをかく！」と言って、白い紙に波を描き、大好きなウミガメを描き始めます。

T男と相談し、描いた部屋は廊下に貼っていくことにしました。「ここにたくさんお部屋をつけて、『100 かいだてのいえ』を作るぞ！」とT男もやる気満々。描いた部屋を廊下の壁にはり、また一枚出来上がるたびに、鉛筆ではしごや階段を描き、部屋をつなげていきます。

次の日も「100 かいだてのいえしたい！」とやってきたT男。自分で紙を取ってくると、さっそく部屋を描きだします。「今日は毒の部屋！」とあって、中を黒や青で塗ったり、「上は雷がきてるよ」と黄色で塗ったりしながら楽しんでます。そして、部屋ができあがると廊下に貼りに行きます。すると、T男は「これは大変だなー」とつぶやきました。どうやら、「100 かいまで続けたい」という思いが強くなってくると同時に、目標がリアルに見えてきて、まだまだ先は長いことに気が付き始めたよう。

そこに、E子が「何しているの？」とやってきます。教師は「いま『100 かいだてのいえ』をT君と作っているんだけど、まだまだ部屋が足りなくてさー」と言う。すると、E子は「私も書きたい！」と言ってきます。E子はウサギの部屋を描きだす。T男もその横で嬉しそうに「おまんじゅうの部屋」を描きはじめます。

「これはまるおまんじゅう、こっちはとげとげおまんじゅう、おしりおまんじゅうもあるよ！」と周囲の子らに嬉しそうに話すT男。部屋を通して表現されるT男の世界観も本当に面白いです。

階数も20を超え、部屋がつながってきたので、教師は廊下に机を出し、そこで描ける環境を用意しました。机の前には100階建てシリーズの本を並べます。この日は、「犬の部屋を描こう！」と描き始めるT男。犬の前には餌を描いています。「もう一匹描こうかな？」とT男。それを見て、R男が「いれて！」とやってくる。「僕は危険生物の家がいいな！」と危険生物の図鑑を持ってきて広げだす。「それ知ってる！」と隣にいたT男も反応します。結局R男は図鑑を見るのに夢中になり部屋を描くことはありませんでしたが、100 かいだてコーナーを通して、T男はいろいろな人と関わり始めます。T男は犬の部屋ができ上がると、壁に貼りつなげました。そして「22」と階数を描き込みます。

すると、次はK男がやってきて、「いれて！」と言います。するとK男は「新幹線の家を作りたい！」と言います。でもどうやって描けばいいかわからない。そこで、T男は「あそこに新幹線の部屋があるよ！」と以前に自分が描いて壁に貼ってある新幹線の部屋をK男に教えます。そして、それを取り、K男に見せます。K男はその新幹線の部屋を見ながら、描き始めます。そのよこでT男は「しかくばいきんじょう」を描き始めました。T男がいろんな色で塗りだすと、それを見てかK男もカラフルに新幹線を塗り始めます。K男は「これはレインボー新幹線！」と嬉しそう。そして、壁に貼りました。T男は「しかくばいきんじょう」の部屋に「24」と紙に書こうとしています。しかし、4が上手に書けない。すると、4階の部屋をじっと見て、そこに書いてある4の字を見ながら、書き始めます。そして上手に書けると嬉しそうなT男。

これまでではどちらかというと教師と一対一や一人で遊ぶことが多かったT男。この「100 かいだてのいえ」を描いて遊ぶ中で、その面白さ、魅力に周囲の子が自然と集まってきます。それは生き生きと自分の「好き」を楽しんでいるT男の姿が周囲に伝播しているのかもしれません。そして、その中で自然と人と人の関わりが生まれていく。「好き」を通して人と関わる中で他者を認め合ったり、新たな発想が生まれたりとその素敵さも感じます。

現在40階。あくまでもT男のペースでゆっくりとできあがっていく『100 かいだてのいえ』。廊下に貼ってあるからこそ、日々少しずつでき上がっていく部屋を自然と目にする他の子どもたち。どのようにこれから遊びが展開されていくのか、教師も一緒にT男と楽しみながら、見守っていきたいです。

